

市民環境大学OB会 ニュースレター



春の兆し 白梅とハチ

第19号 2018年3月15日 発行

日野市環境拠点 黒川清流公園周辺での環境活動

日野市の環境拠点である環境情報センターが日野駅近くから多摩平の黒川清流公園の隣接地に建築されたカワセミハウスに移転し約一年が経過しようとしています。今回のニュースレターでは黒川清流公園周辺での環境活動ということで、市民環境大学の講師である小倉先生より市民環境大学で実施されたフィールドワークについて投稿頂きましたので以下掲載します。

投稿 「黒川清流公園でのフィールドワーク」

小倉 紀雄

2017年4月に日野市立カワセミハウスが開館したことに伴い、市民環境大学の講座ではフィールドワークを重視することにしました。すぐ近くの黒川清流公園へ6回訪れました。前期には春に湧水の調査、初夏に植物の観察（講師：杉浦さん）と気温の測定を行いました。後期には秋に散策（講師：田中さん）を行う予定でしたが、雨天だったので室内で話題提供がありました。初冬に野鳥の観察（講師：村岡さん）と気温の測定を行いました。

気温の測定は黒川清流公園内12地点と公園外の南側5地点、北側5地点で午前11時に一斉に行いました。気温の平均値は次のようになりました：

	初夏（7月13日）	初冬（12月14日）
公園内	30.4℃	10.0℃
公園外南側	32.1℃	9.4℃
公園外北側	30.7℃	8.5℃

公園内では初夏に低く、初冬に高い結果が得られ、黒川清流公園のような緑地は気温を緩和する機能をもつことが考えられます。



2017年12月 野鳥の観察会風景



野鳥を見上げる参加者の皆さん

OB会メンバー 活動イベントニュース

- OB会活動への参加呼びかけ 環境大学 8期・9期修了生17名へのOB会参加勧誘パンフレット送付。
- 6月実施 全国水質検査 参加申し込み開始
- 日野市生物多様性シンポジウム開催 3月17日(土) 13時～16時 定員100名(先着順)

OB会 輪読報告 題名 森林飽和 著者 太田猛彦

- 1月 第二章 はげ山だらけの日本 三 里山とは荒地地である
- 2月 第三章 森はどう破壊されたか 一 劣化の始まり

「OB会 新年度の活動 ご案内」

OB会長 飯島利三

OB会では新年度の活動を従来の座学に加え観察会や見学会などをより多く提案し、会の活性化につなげていきたいと考えています。私見ですが以下思いつくままに紹介したいと思います。

まず4月前後に、足元をじっくり見るということで、日野台地の段丘崖をゆっくり歩き、その生い立ちを考えてみるのはいかがでしょうか？ 二つ目は、地震や防災(太陽フレアなどを含め)などを考えますと、立川市の防災センターや極地研(既に一度訪問)などへ伺ってもよいと思っています。

更に夏の暑い時期にはあのおいしい“かき氷”を食べて国分寺崖線(真姿の池)を見学できればと思っています。また小倉先生の許可が得られれば環境大学の屋外実習(測定)に参加することも楽しいのではないかと思います。

このように今年度は月例会にフィールドワークを増やし、より楽しいOB会にしたいと思っています。ぜひ多くの方の参加をよろしくお願いいたします。

[OB会コラム]

OB会の毎月の活動の中で日野市の湧水測定は重要な活動の一つです。ニュースレターでは定期的にこの活動を報告してきました。昨年4月よりOB会の拠点がカワセミハウスに移り、湧水測定も黒川清流公園に変更となり、測定地点の環境変化もあってOB会員はいろいろ苦労しながら測定を継続しています。今回、湧水測定の重要なメンバーの一人である原田さんに測定方法の変遷や苦労話を投稿頂きました。また同じく当初からの測定メンバーの坂井京子さんに測定風景の写真を提供いただきましたので以下に紹介します。

投稿

「OB会の湧水量測定に関わって」

OB会 原田 武司

水と緑をスローガンとする日野市の市民環境大学のOB会なのだから日野の湧水にも関わるべきとの声に押されて湧水測定を開始したのは平成28年の春先でした。場所は当時のカワセミ館に近い谷仲山湧水地を選びました。観測は容積計量法と呼ばれる一定時間に湧出する水をバケツで回収して重量を量る方式でしたので、誰もが水遊びに戯れる小学生に戻った気分になり満ち溢れていました。並行して電気伝導度・CODも記録に残しています。

その後カワセミハウスの移転に伴い観測場所も黒川清流公園周辺に移動することになりました。新たに観測地点の選定からはじめましたが、手慣れた容積計量法が可能な適切な場所がないため、水路流速断面計測法1か所、日野市が設置した剣道場前の三角堰を利用した三角堰法の2か所でスタートとなりました。

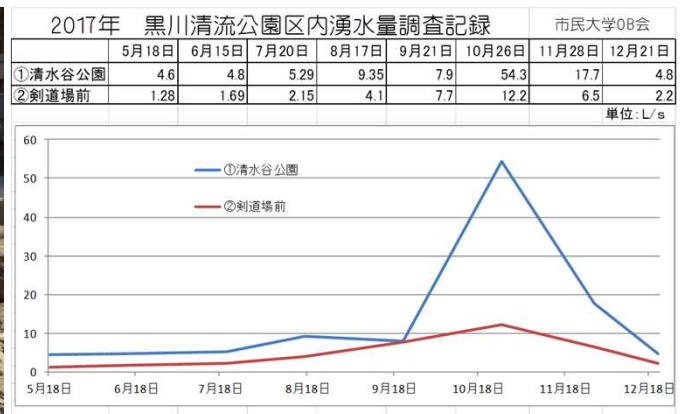
三角堰法は囲いの中に流れ込んだ水が三角の切り込みから流れ出る高さを計れば後は換算表で流量が簡単に算出できますが、流速計測法は水路に流して計測する浮きの形状や重さによっても大きな誤差が生じてしまうため試行錯誤の連続でした。ようやく安定した数値を計測できるようになって現在は観測地点を目標とした4か所に拡げ実施しています。さらに今年に入りより正確な測定が短時間で可能な最新鋭のデジタル流速計(※参照)を顧問の小倉先生から提供戴けるようになってデータの信頼性も一段と向上しました。

昨年の10月の記録的な大雨後の測定では三角堰を測定不能となるほど溢れだし、段丘崖の周辺はどこもかしこも水浸しでした。これを一時的な現象と片づけるか日野台地全体の保水力の低下によるものかは観察を続けて結果を見守るしかありません。そして黒川清流公園に隣接する多摩平に高層マンション群が建設されることで湧水への影響が懸念される今、私たちの活動も一層意義あるものになると確信しています。

※(株)ケネック 「プロペラ式流速計 VR-301」



黒川清流公園湧水測定の一コマ 水温測定中



湧水量測定値の推移 (清水谷公園、剣道場前)